

第1回裾野市総合計画審議会意見対応方針

資料1

番号	項目	委員	意見内容	対応方針
1	総合計画策定方針	西野委員	①ロジックモデルはしっかり作らないと間違っただけで行ってしまうことがあるので注意が必要である。 ②EBPMは大事だが、手間暇を予測して取り掛からないと、職員の負担が増えてしまうので、慎重に作った方がよい。	①まずは目標を明確にした上で、その達成状況が確認できる妥当性のある指標をロジックモデルの各ブロックごとに設定したい。設定した各ブロックの適否やブロック間のロジックの整合性については、審議会で確認していただき妥当性を判断していきたい。 ②極力、職員の負担にならないよう状況を見ながら、EBPMの考え方を取り入れた計画策定を行っていきたい。
2	社会経済動向と本市への影響	望月委員	大手自動車工場の跡地がこれからどうなるのかが一番大きな問題だと捉えているので、これから計画を策定していく中で状況を教えてほしい。	工場跡地での今後の取組については、企業からのプレスリリースを待つほかないが、Society5.0に代表されるような革新的な技術を活用したまちづくりは、全国的にも加速していくと思われるので、裾野市においても時代の変化に対応したまちづくりをしていく。
3	社会経済動向と本市への影響	藤井委員	①裾野市内における外国人の人口動態や雇用動態がどのような状況にあるのか数字で押さえてほしい。 ②また、多文化共生の文脈から、外国人と一体となった裾野市のまちづくりの状況について情報提供してほしい。 ③20年間の計画である立地適正化計画をバックキャストの手法で10年前に割り戻した形で、これから策定する総合計画と整合性を図る必要がある。 ④市として具体的な施策の中で、今後10年間でどこに力を入れてやっていくのかといった方向性を次のステップあたりで示してほしい。	①統計データで数字を確認し、情報提供する。 ②多文化共生については、庁内でまだ具体的な議論が進んでいない状況ではあるが、今後のまちづくりを考える上で大事な視点であるため、計画策定の過程の中で、議論を重ねていきたい。 ③まちづくり課と連携し、立地適正化計画との整合性を図り、時間軸を意識した計画策定を実施する。 ④市民等からなる総合計画策定協議会での議論も踏まえながら、今後、注力していく分野や取組を明確にしていきたい。
4	社会経済動向と本市への影響	山本委員	①多様な選択肢という生き方を尊重しないといけないという今の世の中の大前提をしっかりと確認した上で、市の方向性を考えてほしい。 ②示された最新の動向がモノや情報の面ばかりになっているが、今、教育の在り方が大きく変化しようとしているので、子どもたちをどう大人に育てたいのかというところが、裾野市独自のものとして計画の中に現れてほしいと思う。	①人々の多様な価値観やライフスタイルを尊重し、市民が幸せを実感できるようなまちづくりにつなげていきたい。 ②先行きが不透明な時代であっても、子どもたちが逞しく、自らの道を切り拓いていけるような、生きる力を養うことができる教育の方向性について、計画策定プロセスの中で議論していきたい。
5	社会経済動向と本市への影響	出口委員	一企業の問題とはいえ、大手自動車工場の跡地が今後どうなっていくのかについては、市内の中小企業の経営者も非常に興味を持っているので、そのところも見据えて計画策定してほしい。	工場跡地の問題は、市としても大変重視しているところなので、絶えず動向を見ながら、総合計画の策定を進めていきたい。